

はじめに

当活動は、当初の活動内容であった『広報誌発刊による中央大学国際経営学部のプロモーション』を一部変更し、『電子書籍の広報誌による中央大学国際経営学部のプロモーション』へと途中で変更いたしました。理由は、2021年に複数回発出された新型コロナウイルス感染症に係る緊急事態宣言により、当初の予定であったキャンパスで、広報誌の販売（もしくは配布）をすることが現実的ではない状況に陥ってしまったためです。そこで、今回は、当初の活動内容を一部変更し、『電子書籍の広報誌による中央大学国際経営学部のプロモーション』の活動をいたしました。また、活動の途中で、自身のマネジメント力の不足もあり、想定していたインパクトを与えることができないと考えたため、広報誌の販売のために設立する合同会社に、Web関連の事業項目を追加し、2021年度以降も継続して、インターネットを利用したプロモーション活動を行うことを計画いたしました。

まず、広報誌の制作に関わる活動は、2020年10月から開始し、2021年8月に終了いたしました。当プロジェクトは、中央大学国際経営学部の学生5名と、法政大学社会学部の学生1名で行われました。当初の目的は、中央大学の国際経営学部の学生団体の広報活動を支援し、同学部のプロモーションを行うことでした。しかし、緊急事態宣言の影響で、プロジェクトのスケジュールを見直す必要があったため、電子版の学部広報誌の制作をし、その数も2つから1つのみへと変更しました。理由は、緊急事態宣言による人流制限によるコンテンツ不足により、プロジェクトの進捗に支障をきたしたため、広報誌を成果物として制作し、当初の目的であったプロモーション活動を合同会社の設立とその経営によって、活動の埋め合わせをする方向へと変更を決めたためです。プロジェクトを通して学んだことは、プロジェクトマネージャーは、担当するプロジェクトの分野での経験や知識量によって、プロジェクト成功の是非が左右されるという学びが得られました。そのため、本報告書では、緊急事態宣言が直接関与しない要因により、プロジェクトの進捗がスムーズに至らなかった点とその要因を探り、解決策を考察することを通して、自分の専門領域ではない広報誌プロジェクトをマネジメントした際の知見を共有できれば幸いです。

次に、合同会社設立に関わる活動は、2021年4月から開始し、2021年11月現在も継続中です。当初の目的は、生協での広報誌の販売に関わる活動を円滑に進めるための合同会社を設立することでした。活動内容の修正後では、合同会社の設立とその経営を行うことを通して、学部のプロモーションを行うことへと目的を変更いたしました。理由は、前述の通り、複数回の緊急事態宣言によりプロジェクトの進捗に遅れをきたし、当初の計画であった広報誌によるプロモーションの十分なインパクトが期待できなかったため、インターネットの技術を活用した事業により、学部のプロモーションに貢献をする方向へと変更することを決めたためです。現在は、バーチャルオフィスを契約し、登記に関する手続きをすでに完了させており、合同会社の製品であるWebサービスの開発中です。このサービスを軸に、企業経営に挑戦し、学部のプロモーション活動を計画しております。現在までの活動を通しては、合同会社の設立に関する手続き上の難しさと、アイデアを実際にビジネスへと昇華させる際のプライシングや最初の顧客（ユーザー）を獲得することの難しさを日々実感しております。

本報告書では、まず最初に、広報誌制作の流れを紹介し、その際のプロジェクトマネジメントで発生した課題とその要因、考えられる解決策を考察します。次に、販売活動を円滑にするために設立をした合同会社を、学部のプロモーションに貢献させるための今後の活動内容について説明します。

広報誌制作を通じたプロジェクトマネジメント体験とその成果

広報誌制作プロジェクトでは、制作ツールの導入から、メンバーと共同で取材とページ制作、AmazonのKindle Direct Publishingサービスで電子書籍化をいたしました。具体的な活動は、一部の取材以外は全てオンライン上（Slack、Zoom、Adobe Creative Cloud、Kindle Direct Publishing）にて行われました。

プロジェクトの経過

まず、2020年11月5日に、Zoomで、1回目のミーティングを開催し、メンバーのアイスブレイクを行いました。同年11月12日に、2回目のミーティングを開催し、自分の目標設定、広報誌名の選定、デザインの方向性について議論をしました。その際には、商標登録されていない名称かつ、広報誌のコンセプトや発音がしやすい名称を追求するあまり、ミーティング内での策定には至りませんでした。11月19日に、3回目のミーティングを開催し、広報誌に掲載するコンテンツについて議論をしました。その際に、国際経営学部でビジネスコンテストに挑戦する集団である『UNO-ISM』、国際経営学部発の文系学生のためのプログラミングサークルである『Venture.Code』に焦点をあてることに決定しました。また、2021年度の緊急事態宣言以前に予定されていた、UNO-ISMの構想したLMSシステムを、Venture.Codeが開発をする共同プロジェクトをメインコンテンツと決定しました。12月3日に、4回目のミーティングを開催し、メンバーの担当分けを行いました。当初、自分とメンバーは取材班、ライティング班、コピーライティング班、デザイン班に分かれて作業を行う予定でしたが、何名かのメンバーが様々な業務を担当したいという希望があったため、明確な担当分けを行わずにプロジェクトを進めることに決定しました。その後、取材対象ごとにチーム分けを行い、取材活動を行うフェーズへと移行しました。度重なる緊急事態宣言の影響で、大学内で様々な活動が減少し、コンテンツの不足に陥ってしまったため、当初の取材先を、『Venture.Code』と、国際経営学部で様々な活動をする『CVS』と、当プロジェクトのために私が設立した合同会社である『Sai Software』に変更し、取材を延期しました。また、曖昧な工数管理に起因する進捗の遅れなども生じ、結果的に、2021年8月3日の第一号の発刊を最後にプロジェクトを一旦終了しました。以上が広報誌制作プロジェクトの概要です。

プロジェクトを通して浮き彫りになった課題と考えられる対抗策

プロジェクトの遅延

今回のプロジェクトでは、緊急事態宣言の影響に加え、プロジェクトマネージャーである私のマネジメント力不足に起因する遅延があったことは否めません。曖昧な工数管理による遅延が度々発生しました。例えば、ページのデザインを行った際には、そのタスクに対する期限を明確に決めておらず、結果的に、当初の予定から約1ヶ月の遅れが発生しました。その解決策として、タスクの細分化による工数管理が挙げられると思います。当事例では、ページの作成を、ページデザインと文章入力という大きな2つのタスクとして分類してしまい、その結果、工数管理に曖昧さが発生してしまい、遅延が発生したと考えられます。そのため、

タスクの細分化をし、単純な作業に分けることにより、未経験の作業であっても、工数の予測がしやすくなり、プロジェクトの遅延を無くすことが可能になると思います。

作業量の偏り

今回のプロジェクトで発現したもう一つの課題として、人による作業量の偏りが生じました。理由は、制作ツールであるAdobe Creative Cloudのライセンスが、コストを考慮した結果、私が個人で契約しているライセンスと合わせて同時に2つしか用意できず、2名までしか編集作業ができなかったからです。また、制作ツールの導入をスムーズに行うことができず、最初に作業を行ってもらった一人のメンバーに継続して作業をやらせてもらう必要になってしまったことも要因の一つです。当事例の解決策として、1つしかない共用ライセンスを効率的にユーザーの切り替えを行うことが挙げられます。その実現のためには、コミュニケーションを取りやすい連絡用ツールを利用する必要があったと思います。理由は、メンバーがあまり馴染みのないSlackでは、メンバー間でコミュニケーション活性化されなく、ライセンスの移動の要請がしづらい環境であったと認識しております。事実として、プロジェクトマネージャーであった私の発言を起点として会話が始まることがほとんどでした。これは、使用するツールの選択ミスであったと思います。そのため、メンバーが使用しやすいツールの利用することによって、スムーズなライセンスの切り替えができ、作業量の偏りを改善することができたと考えられます。

設立した合同会社の今後の活動内容について

現在は、Web上で学生団体のプロジェクト管理を支援するWebアプリの開発を進めております。理由は本活動を通して、プロジェクト管理の重要性に再認識したためです。目的としては、学生がWebアプリの運用という事実により、国際経営学部のユニークさを発信することにより、プロモーション効果を発生させるためです。初めての経験なので、正直不安は残りますが、当プロジェクトで得たプロジェクトマネジメントの知見を生かし、開発を進めていきます。

さいごに

まず、他大学の協力者を含むチームメンバーや取材を受けてくださった学生、資金を支援していただいた大学関係者の方々に感謝申し上げます。当プロジェクトを通して、他者を巻き込んだプロジェクトマネジメントの難しさを痛感しました。個人的な感想にはなりますが、私自身、試行を重ねて成長していく性分でございますので、今回の経験は、インパクトこそ目標に及びませんでしたが、人としての成長が実感できました。今後は、今回得られたプロジェクトマネジメントの経験を発展させ、プロジェクト管理支援のWebアプリの開発と運用を通して、学部内外に国際経営学部のユニークな魅力を発信していきたいと思っております。当初、学部の内の目立った活動がCVSのみであり、学部の盛り上がりに関して不安に思ったため、当プロジェクトを企画したという背景がありましたが、緊急事態宣言が明け、キャンパスでの活動が増えてくると、学部の1年生による広報団体をはじめ、いくつかの団体が立ち上げられ、焦りを感じていた自分を恥ずかしく思いつつも、安堵しております。

※なお、当プロジェクトの成果物である広報誌は以下のURLからご覧いただけます。

https://www.amazon.co.jp/glenn-%E5%AD%A6%E9%83%A8%E5%86%85%E3%81%AE%E8%80%B3%E3%82%88%E3%82%8A%E6%83%85%E5%A0%B1%E3%82%92%E3%81%8A%E5%B1%8A%E3%81%91-%E5%9B%BD%E9%9A%9B%E7%B5%8C%E5%96%B6%E5%AD%A6%E9%83%A8%E9%9D%9E%E5%85%AC%E5%BC%8F%E5%BA%83%E5%A0%B1%E8%AA%8C%E7%B7%A8%E9%9B%86%E9%83%A8-ebook/dp/B09BQ2P4M7/ref=sr_1_2?__mk_ja_JP=%E3%82%AB%E3%82%BF%E3%82%AB%E3%83%8A&keywords=%E3%82%B6+%E3%82%B0%E3%83%AC%E3%83%B3&qid=1638291237&s=books&sr=1-2